2024 年 9 月 6 日発行
2024 年 11 月 15 日更新

2025 年度
経済学部ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

2025 年度　経済学部
ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

目　　次

演習のすすめ　…　2
教員によるゼミの紹介　…　3～29

経済学科	頁
大石尊之	3
大村真樹子	4
神山恒雄	5
神門善久	6
児玉直美	7
小林正人	8
高松慶裕	9
田中淳一	10
田中鉄二	11
土屋拓也	12
中村友哉	13
中野聡子	14

経営学科	頁
五十嵐千尋	15
尾畑裕	16
佐藤成紀	17
西村三保子	18
浜口幸弘	19
吉田真	20
赤松直樹※３次募集	
斉藤嘉一※３次募集	

国際経営学科	頁
渥美利弘	21
生方雅人	22
大野弘明	23
岡崎哲二	24
工藤健太	25
西原博之	26
藤田晶子	27
マイヤーオーレ	28
松園保則	29

演習のすすめ

2024 年 9 月 1 日
経済学部長　藤田晶子

演習は、これまでの大教室での受動的な講義とは異なり、教員の丁寧な指導のもとに、仲間とともに主体的に調査・研究をすすめ、いろいろな視点から一つのテーマをとことん深掘りしていく場です。問題提起から課題解決にいたるまで、社会で必要不可欠な論理的思考をつちかう場でもあります。

演習の魅力は、一言では言い尽くすことができません。

履修者はわずか 10 人程度の少人数ですので、教員やその研究を身近な存在として感じることができる貴重な機会です。国内外で生起する経済問題を議論し、ときに人生についても語り合える仲間は、一生の宝物（たからもの）ともいえるでしょう。調査・研究・プレゼンはもとより、飲み会や合宿、OBOG との交流会、他大学のゼミとのディベートなど、まさに「これぞ大学！！」が演習です。

ゼミナールガイドブックを読んで、各教員の演習内容をしっかりと把握したうえで、自分が研究したいことを考え、どの演習に応募するかを選んでいただきたいと思います。

みなさんの大学生活をより充実したものにするために、ぜひ、演習を経験してみてください。

大石　尊之　ゼミナール

演習のテーマ

法と経済学（ブロックチェーンと法のゲーム論的分析：限定合理性の観点から）

演習の内容

学生の皆さんは、法律と聞くと、例えば、六法（憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法）等を想起するかもしれませんが、私たちの日常生活や企業活動を円滑にするうえで法律が欠かせないという認識では一致していると思います。1960 代以降、主に米国で発展してきた、法と経済学は、どの国においても中心となるような法領域を分析対象としており、所有と財産権や不法行為に関する法、契約法、刑法、競争法・知的財産法や国際法などが研究されてきました。私自身は、市場理論、ゲーム理論およびグラフ理論といったミクロ経済学やネットワークの数理分析の手法を通じて、因果関係が複雑な不法行為法の問題を規範的に分析したり、所有権の形態がどのように市場と法制度の双方を通じて内生的に決定されるのか等を分析したりしています。最近、研究代表者として「ブロックチェーンの法と経済学：スマートコントラクトの財産権分析」（2024 年度科学研究費助成事業基盤(C)）や「ブロックチェーンと所有権の経済分析」（2023 年度明治学院大学産業経済研究所プロジェクト）等の研究プロジェクトを立ち上げて、学内外の経済学者・法学者の研究プラットフォームの構築と当該研究を推進して、デジタル時代の新しい法制度の設計に向けた理論構築を目指しています。

私は「法と経済学」を、法制度や法律の社会的パフォーマンスを評価したり、規範や慣習を含む法的ルールが市場や組織とどのように関連しているのかを明らかにしたりするための経済学として位置付けています。このような観点から、これまで 3 年ゼミでは、例えば、競争法や規範、慣習のメカニズムを、ゲーム理論を通じて議論するために、法学者や（法と）経済学者が書いたテキストを輪読してきました。また、4 年ゼミでは卒論執筆に向けて、各自が興味ある法と経済学に関する研究テーマに即して、論文指導をしています。ゼミ生は、私が担当する「法と経済学 1＆2」を履修することが必須となっており、これらの科目履修を通じて、法と経済学の基本的な考え方を学びます。

2025 年度は、デジタル通貨などの基盤技術であるブロックチェーン技術が様々な法制度に与える影響を、人間の限定合理性を念頭にしたゲーム論的な枠組みで分析することをテーマにしたいと思います。使用するテキストは、ブロックチェーンの法学的分析の先駆的著作であるテキストの邦訳本である「ブロックチェーンと法：＜暗号の法＞がもたらすコードの支配」（プリマヴェラ・デ・フィリッピ＆アーロン・ライト 著, 片桐直人 編訳, 弘文堂, 2020 年）を予定しています。現実の法律やブロックチェーン技術が社会に与える影響やその相互作用に関心を持ち、人間の限定合理性を念頭にした新しいゲーム理論の応用にも関心がある、学生の参加を歓迎します。

大村　真樹子　ゼミナール

演習のテーマ

Health Economics　（健康・医療経済学）

演習の内容

大村ゼミナールで健康・医療経済学の奥深さを探求

大村ゼミナールでは、公衆衛生と福祉の視点から、複雑な社会経済問題を扱う健康・医療経済学について学びます。健康・医療は私達の幸福・厚生にとり重要な要素です。その社会的仕組みや、関連する私達の行動を理解することは、私たちの厚生の改善も重要です。

学びの内容:

- **医療制度の経済分析:** 医療システムの社会的コストと利益のバランスは？健康保険制度の多様性と情報の非対称性から生じる問題はどのようなものか？
- **健康財の価値と特殊性：**健康が他の財とどのように異なるのか？また、健康を重視する人々とそうでない人々の違いは何か？健康投資とは？
- **健康における行動経済学:** 健康への悪影響が明らかであるにも関わらず、なぜ人々が喫煙を続けるのか？ファストフードの摂取を減らす等の予防行動の経済的意味合いとは？
- **加齢と健康:** 加齢と健康の関係とは？健康資本は時間とともにどのように価値を減じるのか、そしてそれが個人の健康決定にどのように影響するのか？

ダイナミックなゼミナール体験:

- **アクティブなディスカッションとプレゼンテーション:** 3 年次では、Bhattacharya, Hyde, Tu 著『Health Economics』（邦訳未発行の英語教科書）の担当箇所を、ゼミ同士協力して準備・発表し、そして討論に積極的に参加することが求められます。3 年次の後半から、4 年次で本格的に取り組む卒業論文の準備に取り組み始めます。

重要スキルの育成:

- **複雑なアイデアの表現:** 様々な経済分析手法を学び、かつこれらを分かりやすく、正しくかつ効果的に表現する―論文を書く・発表をする―力を身につけます。
- **知的好奇心と視野の拡大:** 多様な「健康・医療」問題に対する造詣を深め、これらを批判的かつ経済的に考察することで知的好奇心を養います。同時に、多様な経済社会事情に関する洞察を得て、幅広い視野を育てます。
- **どのようなキャリアにも基盤となる知識とスキル:** このゼミナールで習得するスキルと知識は、どのような分野でも活躍するための有用な資産となります。

神山　恒雄　ゼミナール

演習のテーマ

近代日本経済史(幕末開港～第二次世界大戦)

演習の内容

近代の日本経済(幕末開港～第二次世界大戦)について検討します。

近代日本経済史を学ぶ意義は、現代とは本質的に異なる側面を持つ近代日本経済の実態を解明することで、現代日本経済を相対化してその特徴を理解することにあります。

そこで３年次では、まず基礎的な知識を習得するために、近代日本経済史の展開を大筋で把握できる概説書を講読します。その上で、特定の分野や時期を対象とする最近の研究書・論文(たとえば明治期の鉄道史)を講読することで、日本の資本主義化が可能になった条件を考察します。

４年次では卒論を作成します。テーマは近代日本経済史に関するものについて、参加者各自の関心に基づいて決めます。その上で、先行研究や利用可能な史料を収集・読破して卒論の執筆を進めるのですが、演習では進捗状況に応じて中間報告と個別相談を行います。卒論執筆には一定の準備期間が必要ですので、どのようなテーマで卒論を書きたいか、早くから考えておくことが重要です。

なお演習は毎回担当者を決めて発表形式で行いますが、発表担当者以外の参加者も討論に積極的に参加するために予習が不可欠です。また合宿などゼミの行事に積極的に参加・協力してください。

演習に関する質問は E-mail を利用してください。オンラインでの面談の必要があれば日時を相談します。（アドレスは kamiyama@eco.meijigakuin.ac.jp）

神門　善久　ゼミナール

演習のテーマ

経済学の基礎

演習の内容

参加者の希望に応じて弾力的に内容を決める。基本的に、図表を使った論述の仕方など、実利的な演習にする。

児玉　直美　ゼミナール

演習のテーマ

政策評価

演習の内容

情報技術の発展によって、大量のデータ（ビッグデータ）が入手できるようになってきました。「政策評価」は、国や地方自治体の「政策」をデータを使って評価するだけではありません。政策評価の方法を習得すれば、「どんな広告戦略を採用すると売上が上がるのか？」「社員の仕事の効率を上げるためにどんな方法が良いか？」「補助金にはどの程度の効果があったか？」「教育現場で、どの教材が効果があったか？」という問題にも答えることができます。近年、インターネット関連のハイテク企業だけでなく、多くの企業で、ポイントカードデータ、POS、スマホのメッセージや SNS を利用したダイレクト、リアルタイムに行う広告や販促が一般化しています。「政策評価」は、単にビッグデータが使えればできるわけではありません。機械学習などの手法で、巨大なデータを事後的に分析するだけでは、なぜそのようになったかというメカニズムの部分はブラックボックスになってしまいます。理論や先行研究を踏まえた仮説を組み立て、因果関係を明らかにする方法を習得しませんか？

このゼミの目的は、**計量経済学を使って、様々なデータから自分のオリジナルな発見をすること**です。公務員やコンサルを目指す人だけでなく、民間企業でマーケティングや新企画を立ち上げる時に、政策評価の知識とスキルは役に立ちます。データを駆使して自分で考える能力を養ってみませんか？この能力を活かし、各自、興味のある社会のメカニズムについて研究を行います。経済学の考え方を基本としますが、法律、経営、マーケティング、福祉、環境、スポーツ、趣味など、様々な視点を絡めて柔軟に考え、議論してください。

最初は座学での学習と実際のデータ分析を通じて分析感覚を養います。本格的な研究はグループワークで行い、統計分析ソフトの習得も含めて、約半年じっくり行います。研究成果はプレゼンテーション訓練を徹底的に行った上で、学内（ゼミ内、他ゼミ）、学外（他大学との合同ゼミ）で発表します。発表前には、グループで、ゼミ以外の時間に集まって準備することもあります。4 年生では、これらの経験を活かして、自分の好きなテーマで、卒業研究を行います。その他，ゼミ生の希望に応じて，ゼミ合宿、他大学との発表会や合宿、懇親会、スポーツ大会なども行う予定です。ゼミ運営は「一人一役」で業務を分担します。ゼミの時間以外での活動も多いので、卒業後も付き合っていかれるような仲間に出会えることは間違いありません。ゼミ活動、課外活動に積極的に関わる学生の参加を期待しています。

小林　正人　ゼミナール

演習のテーマ

Python によるデータ分析

演習の内容

コンピュータ言語 Python を学び、データ分析に応用していきます。

３年次は、python や pandas の文法を学んだ後、『データサイエンス 100 本ノック構造化データ加工編ガイドブック』で基本的なスキルを練習します。

４年次には、卒論執筆を目標として、OECD の『生徒の学習到達度調査』（PISA）や東京大学社会科学研究所の『親子パネル調査』などの数千件の調査データの分析を実際に行います。

プログラミングが初めての方でも歓迎します。Python は社会調査やマーケット調査などの大規模なデータ処理に適しているにもかかわらず、文系で使える人はまだ少ないので、習得することのメリットは大きいと思います。

高松　慶裕　ゼミナール

演習のテーマ

財政学，公共部門の経済学

演習の内容

財政学は，狭義には政府が資金をどのように調達し，どのように支出するか，を研究する学問で，広義には政府（公共部門）の経済活動を対象にした経済学です。主たる研究対象は，租税（所得税，消費税，法人税など），公債（財政赤字，財政再建など），社会保障（年金，医療・介護保険，生活保護など），地方財政・政府間財政などですが，他にも予算制度や財政政策・経済政策などカバーする領域は多岐にわたります。ゼミのテーマは，広く公共部門の経済学の中から学生主体で決めてもらいます。

2025 年度は B ゼミでの募集になります。4 年次のゼミや卒業論文の指導はありませんので注意してください。

ゼミの進め方は以下のとおりです。

最初に財政学の教科書を輪読し，財政学の基礎理論や考え方，制度について学び，何が問題かを考察します。その後（同時並行で），4 名前後のグループ毎にテーマを設定してもらい，共同研究を行います。その成果は論文にまとめ，11～12 月頃の他大学との合同ゼミ（2025 年度は現時点で未定ですが，2024 年度は弘前大学金目ゼミ・広島修道大学河合ゼミ・大阪学院大学原田ゼミとの 4 大学合同ゼミを予定しています）で発表します。加えて，学期末の学部ゼミ研究発表会でも発表します。

なお，3 年生の共同研究の進捗報告や 4 年生の卒論中間報告（11 月頃），卒業論文発表会（1 月・卒業論文提出後）は 3・4 年合同ゼミで行っています。

高松ゼミの基本方針は「論文を書くこと」にあります。財政学（または経済学）の領域から自分（達）自身で問題を設定し，それを経済学的に分析し，結果を論理的に表現できるようになることを目指します。

その他，ゼミの恒例行事として，歓迎会・懇親会や夏合宿なども行っています。特に共同研究を学外で発表する（他大学との合同ゼミを行う）ためには，ゼミ生一人一人がゼミ運営に積極的になり，主体的に関与する必要があります。このゼミを教員とともに作り上げてくれる熱意のある学生を求めます。

田中　淳一　ゼミナール

演習のテーマ

歴史的にみるヨーロッパ社会経済の展開

演習の内容

このゼミでは、近現代を中心としたヨーロッパ諸地域の社会経済の展開について、地域史やグローバルな観点も含めた歴史的視野から検討していきます。

ヨーロッパはもともとユーラシア大陸の辺境にありながら、ギリシャ・ローマの哲学や技術、キリスト教の信仰・文化などを背景にしつつ、大航海時代、工業化などを経て近代に至ると、一地域を超えグローバルな世界システムの中核を占める勢力として台頭しました。最近こそアメリカやロシア、そして日本、中国、その他のアジア地域も台頭し、その政治的・経済的な影響力の大きさは以前ほど意識されなくなりましたが、ヨーロッパもEU(欧州連合)を形成するなどして、今でも一定の地位を保っています。

それだけではありません。近現代に発展した思想・技術・学問の源は多くヨーロッパにあり、現在でも近代ヨーロッパの作り出した価値規範は世界の経済、文化、社会の在り方に大きな影響を与えています。そのように考えたとき、ヨーロッパの社会経済の歴史を学ぶことは現在の我々の価値観の根本を問い直していくことにもつながるはずです。

このゼミでは以上のような問題認識を背景に、現代に至るヨーロッパの社会経済の歴史的展開を学びます。さらにそのうえで個々の関心のあるテーマを設定して分析や考察に取り組み、その成果を卒業論文の形にまとめることを目標とします。具体的には以下のような形で授業を進行する予定です。

3年次は、ヨーロッパの経済史や地域史、グローバルヒストリーなどについていくつかの基礎文献を受講者全員で講読していきます。講読する文献は受講者の関心や要望も考慮して決定し、受講者は文献のレジュメ作成やプレゼンテーションを通じて、ヨーロッパの社会経済の歴史に関する基礎知識を固めつつ、卒業論文のテーマを決定していくことになります。論文のテーマについては、ヨーロッパに関係するものであれば時代や範囲はある程度自由に設定することができます。

4年次は、前年に決定したテーマに従って具体的に卒業論文を執筆することが目標となります。授業については毎回各自の卒業論文の研究の進展について報告してもらい、それについて議論していきます。

ゼミの授業は学生も主体的に参加して共に作り上げていくものです。歴史と調べることが好きで意欲ある方の参加を期待しています。

田中　鉄二　ゼミナール

演習のテーマ

食料・環境・エネルギーの経済学

演習の内容

私のゼミでは学生が食料、環境、エネルギーの分野をグローバル経済の観点から分析し、研究発表をする事を考えておりますが、学生が主体的に運営をしてもらいたいので、学生からの提案を十分に考慮したいと思っております。

食料、環境、エネルギーは注目を浴びている SDGs の重要な項目であり、それぞれが互いに影響し合っています。例えば気候変動を抑制するためにトウモロコシ、大豆、菜種油、サトウキビ等からバイオ燃料が生産されています。それにより家畜の餌であるとうもろこしの需要が増加し、価格が高騰し、食肉価格も上昇すれば、食料安全保障を脅かす原因となります。世界は持続可能な社会の構築を目指していますが、どのようにバランスをとるべきかを考える必要があります。また、農産物（大豆、小麦など）やエネルギー商品（原油、天然ガスなど）は金融市場で取引され、グローバル経済や各国の経済政策の影響を大きく受けます。

SDGs は現代のキーワードになっていますので、これらの分野を理解することはどの学生の将来にも非常に有益です。また、金融市場も勉強し、グローバル経済の動向も予測する事ができることを目指します。私のゼミでは「英語で学ぶ」を重視したいと考えています。英語で書かれた論文や新聞記事などの資料を読み、短いレポートを英語で書き（上手に書けなくても構いません。トライする事が重要です。）、それを基にプレゼンテーションをしてもらいたいと思っています（可能であれば英語によるプレゼンテーションにしたいです）。卒業論文のテーマは自由に決める事ができます（必ずしも上のテーマである必要はありません）。

英語は誰でもできるようになりますし、皆さんが思っているよりも難しくありません。英語ができれば、情報量が増え（インターネット上の情報の６０％が英語で、たった２％が日本語です。）、世界中に友人を作れ、国際的にビジネスも出来るようになります。将来の目標に向かって頑張っている学生が来てくれたら、とても嬉しいです。

土屋　拓也　ゼミナール

演習のテーマ

ビッグデータの解析とその応用

演習の内容

本ゼミナールでは、様々な情報を含む実社会のビッグデータの解析を行います。主に数万件以上のデータに対し、統計解析を用いてそのデータの情報を整理し、統計的な観点から情報の解析を行うことを目的とします。また、情報の特徴からモデルを提案し、情報の存在しない部分や領域に対し、推定を行います。可能であれば、これらの結果から経済学的な結論や主張が導き出せることが理想です。

ビッグデータの解析には、機械的なツールが必要なため、プログラム言語が必要です。そのために、３年次春学期はデータ解析のためのツールの使い方を学びます。これにはPython 言語を用いる予定ですが、データの解析ができればよいためプログラム言語自体にはこだわりはありません。また、どのようなビッグデータを扱うかについては、３年時の秋学期前に希望をとります。なお、これまでに扱ったことのあるデータは全国の賃貸物件データと全国の美容室のデータです。扱うデータは、これらのデータでもそれ以外のビッグデータでも構いません。

３年時秋学期から４年時春学期は、実データを用いて解析を行います。ビッグデータからデータの特徴や傾向をみるには、統計量で評価するのが適切なので、統計の学習をしつつデータの解析を行います。その際に微分積分や線形代数の知識が必要となるので、都度学びながら進める予定です。そのため、高校で微分積分を学んでいる場合や入学後に数学系科目を履修している場合は、既にある程度の統計量の特徴が把握できるため、データの分析がしやすくなります。

４年次秋学期は春学期までのデータのまとめを行います。ビッグデータの解析では明確な結論が出ることが稀なため、不明確な結果に説明を加えて説得力のある結果として結論付けるという作業が必要となります。このような作業は卒業後も必要となる技術のため、本ゼミナールの成果として身に着けたいと考えています。

ゼミナールという形態状、進めていくうちにわからないことや知らないことはたくさん登場します。そのため、配属時に知識がないことは問いません。その都度自分で主体的に調べて勉強する意欲のある方を募集します。

中村　友哉　ゼミナール

演習のテーマ

合理的な行動と非合理的な行動の分析（情報の経済学、行動経済学）

演習の内容

このゼミでは、人間の「合理的な行動」と「非合理的な行動」を学び、経済学を日常生活に応用するトレーニングを行います。

「合理的な行動」は担当教員が開講する「情報の経済学１、２」で学習します。情報の経済学はゲーム理論を発展させた分野です。合理的な人間を想定して、不確かな情報のもとでの「かけひき」を分析します。情報の経済学の学習によって「**かけひきを合理的に分析する力**」を身に付けます。ゼミは「情報の経済学１、２」の内容を前提に進めます。

ゼミの時間は、行動経済学のテキストを輪読します。行動経済学は、心理学の知見を経済学の枠組みに取り入れて、人間の「非合理的な行動」を分析する分野です。計画の先送りやダイエットの失敗といった「意志の弱さ」は、非合理的な行動の代表例です。行動経済学を学ぶことで、「**非合理的な行動と付き合う方法**」を身に付けます。

また、ゼミではチームでテキスト内容を発表するだけでなく、ビブリオバトル（本を紹介し合うゲーム）など、プレゼンの機会を多く作ります。プレゼンを通じて、相手に自分の考え方や意見をわかりやすく「**伝える力**」を身に付けます。

教員と現在の所属学生、そして、新しく加わる学生がお互いに協力して、ゼミを作っていきたいと考えています。人それぞれに得手不得手があります。その中で、自分なりに貢献できることを見つけて、ゼミ活動に協力的に取り組んでいける人を歓迎します。

中野　聡子　ゼミナール

演習のテーマ

経済学史、経済思想史、現代経済学の思想背景

演習の内容

この演習は、経済学史・経済思想史をベースにしながら、現代に到るまでの経済学の基本的な考え方を習得することをねらいとしています。つまり、経済理論や思想が、どのような時代や場所で、どのような文脈で出てきたかを参照しながら、現代の経済学の理解を深めようとします。さらに、現代の経済学の問題点や可能性を探るために、様々な学説の限界と意義を検討します。したがって、経済学に今ひとつ理解できない部分がある、あるいは、もう少しその意味を深く考えたいというような問題意識のある学生の参加を想定しています。 _

例えば、A.スミスは、経済自由主義をどのような思想で捉えていたか？経済学という学問はどのような経緯で誕生したのか？J.M.ケインズの経済政策は、どのような思想に裏付けられて登場したのか？F.ナイトは、不確実性をどのように捉えたか？企業の役割や機能を、経済学ではどのように捉えてきたか？経済学の実証的な方法は、どのようにして現れてきたか？など、ミクロ経済学やマクロ経済学の背景にある経済学の考え方を総合的に見ていきます。 _

2025年度は、春学期中に経済学の歴史を概観し、夏休みから秋学期にかけて、特定のテーマを研究します。特に、20世紀初頭の現代経済学の形成を、J.Mケインズ、F.Y.エッジワース、A.マーシャルなどを中心に、経済思想、経済理論史を検討します。

ゼミでディスカッションやプレゼンテーションを実践したい。経済学の本や論文をきちんと読んで、経済学の考え方を吸収したい。文献を検索して、体系的に整理する方法を習得したい。ゼミの仲間と交流し、大学での人とのつながりを大事にしたい。以上のことを意欲的に取り組む学生の参加を希望します。

五十嵐　千尋　ゼミナール

演習のテーマ

日本経営史、日本経済史、産業史

演習の内容

このゼミでは、日本経営史上における様々な企業のケーススタディを学んでいきます。そのなかで、企業の成長に関する基礎的な知識や、論理的な思考を習得することを目指します。そして自らの学びや思考をまとめて文章化し、他者と共有することが出来る能力を身につけること、自ら情報を集めて思考し、議論することを目的としています。

3 年次の演習 A1 では、テキストをもとにいくつかの日本企業のケーススタディを学びながら、文章でレジュメを作成し、報告、ディスカッションをします。我々は常日頃、メールなどで文章を作成していますが、学術的な文章はなかなかすぐには書けるようになりません。インプットとアウトプットに慣れていきましょう。また様々なジャンルの企業の歴史に触れながら、自分は何に関心があるのか、視野を広げていきましょう。

続く演習 A2 では自らテーマを設定し、ゼミ論文を執筆します。その際、論文執筆のための記述資料やデータの探し方も習得します。

4 年次の演習 A3・A4 では、各自が興味を持った事象について卒業論文のテーマとして定め、3 年次の経験を生かして自らの問題意識から課題を設定、実証を行い、卒業論文を執筆します。主に個人で作業を進めていくことになりますが、定期的にゼミで作業の進捗を報告し、全体での中間報告も行います。演習 A4 では卒業論文の完成を目指します。

企業博物館や工場見学、国会図書館への訪問といった課外活動を考えています。参加は任意です。ゼミ生から訪問先に希望があればそれに沿う形で行いたいと思います。

尾畑　裕　ゼミナール

演習のテーマ

原価計算、管理会計、（＋Python）

演習の内容

本ゼミでは、原価計算と管理会計をテーマとしますが、ゼミの活動の大部分は Python を使ったプログラミングとなります。尾畑ゼミは、システムと会計の両方に強い人材の輩出を目指しています。こういった人材は、非常に社会に求められていますが、稀少です。みなさんは、原価計算と聞いて、資格試験や検定試験の試験科目を連想されるかもしれません。常に電卓をたたいているイメージがあるかもしれません。しかし、実務で行われている原価計算は、実に多様で、創意工夫が要求されます。決まったパターンを適用するだけでは終わりません。より本質的な理解とシステム構成力が求められます。

3 年次の春学期は Python を使ってオブジェクト指向の考えかたで原価計算を学んでいきます。すなわち原価計算を構成する様々な概念をクラス（型）として定義して、それを組み合わせて計算のロジックを組み立てていく演習を行います。それにより本質的理解と応用力を身につけます。電卓片手に計算を行う原価計算のイメージとはずいぶんと違います。なお、いきなり原価計算のプログラミングはハードルが高いので、オブジェクト指向プログラミングへの導入として簡単なゲームを作成して対戦してもらっています。

Python は入門時のハードルが低いプログラミング言語です。現時点で、プログラミングははじめてというひとでも大丈夫です。しかし、週に 1 回ゼミで演習を行うだけではプログラミングのスキルは上達しません。どこかで寝食を忘れてプログラミンに没頭するような経験を経ないとプログラミングを身につけることはできません。できるだけ早い時期にそういった経験をしてほしいと思っております。3 年次の秋学期からは、身に着けた Python のスキルを応用して、経営組織のなかでおこる現象をエージェント・ベース・モデル（ABM）のシミュレーションで再現する実験を行います。エージェント・ベース・モデルのシミュレーションは、ミクロレベルでの簡単なルールがエージェント同士あるいは環境とのインターラクションを通じてマクロ的にどのようなパターンを出現させるかを観察する手法です。参考にするプログラムはこちらで用意します。管理会計の問題を、シミュレーションを使って解明していく研究は、まだまだ新しい研究分野ですが、非常におもしろい領域です。みなさんにもシミュレーションで組織現象や管理会計問題を分析する楽しみを味わっていただきたいと思います。

4 年次には、卒業論文に向けて個別テーマでの報告をしていただきます。3 年次でせっかく Python を習得するので、Python を活かした研究テーマを推奨します。それにより非常にオリジナリティのある管理会計研究に取り組むことができると思います。

なお、夏休み中に夏合宿を行なっております。

佐藤　成紀　ゼミナール

演習のテーマ：

企業の会計システム

演習の内容：

企業の経営にとって会計システムは、その財政状態や経営成績に関する情報を提供するという、重要な役割を担っています。

ゼミナールでは、こうした会計システムに関する研究を、ゼミ生一人ひとりが主体的に進めることになります。テーマは会計に関連があれば自由に選択できます。将来就職を希望している業界の企業についての収益性や安全性の分析、会計制度や会計ルールの仕組みや問題点を考察するのもよいでしょう。あるいは、経営やマーケティングと会計の関わりを調べてみることも、有意義な研究です。

実際、各自のテーマを、すぐに見つけることは、なかなか難しいものです。そのような場合、基本の確認から始めると、自分の問題意識を発見できることが多いものです。そうした観点から３年次春学期は、英文教材を用いて会計の基本を学ぶことから始めます。いま、世界の決算書のグローバル・スタンダードとなっているのは、国際財務報告基準などに基づく英文決算書です。会計情報を英語でも理解できる人材がますます求められている、現代のビジネス環境への適応能力を身につけていきます。

こうしたウォーミングアップに続いて、三年次春学期の後半からは、ゼミ生各自のテーマ探しが始まります。毎週、順番に、関心のあるテーマについてのプレゼンテーションをしていきます。ゼミでの個人報告とディスカッションを通じて、自分のテーマを模索して行くわけですが、そのプロセスがとても大切です。参加者全員から色々な意見が出されて、それを参考にしながら、自分のテーマへのアプローチを進めます。四年次では、卒論の完成を目指した個人報告を、さらに積み上げていきます。最初に選んだテーマから、次第に別のテーマに関心が移っていくことも多いのですが、それは、テーマを真剣に探している証拠でもあり、まったく自然なことです。誰もが、迷いながら目標を探すものです。

ゼミでは、「学び」の楽しさを実感してもらえたらと思っています。自分で考え、自分の意見を持つことはとても大切です。ゼミでの報告について出された質問をしっかりと把握し、それに対して的確なリアクションができるように、コミュニケーション能力を高めていきましょう。みなさんが主役となるゼミナール体験を是非、楽しんでもらえたらと思っています。

西村　三保子　ゼミナール

演習のテーマ

管理会計、企業分析

演習の内容

企業会計は、企業に関する取引データを収集し、処理し、それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達する役割を果たしています。経営管理のために主に企業内部のステークホルダーを情報利用者とする管理会計と、利害調整のために主に企業外部のステークホルダーを情報利用者とする財務会計に大別されます。

管理会計目的に会計システムが提供する情報は、実績記録、注意喚起、および問題解決に分類できます。つまり、管理会計情報は、企業の経営管理者が経営管理のために活用する会計情報なのです。

本ゼミでは、テキストにもとづいて、管理会計や企業分析の様々なトピックについて全員参加で議論していきます。報告者以外のゼミ生も議論に積極的に参加することが大切です。どんな意見でも大歓迎ですので、ゼミが明るく活発な意見交換の場になるよう、皆さんで協力し合いましょう。

3 年次春学期には、基礎知識の習得を目指してテキストを輪読するとともに、毎回レジュメを作成し報告します。秋学期には、12 月のインゼミ（他大学との合同報告会）での報告に向け、グループに分かれて調査・研究を進めます。

4 年次は、春秋通して卒業論文の執筆に努め、1 月の卒論提出を目指します。

また、9 月に 3・4 年生合同の夏合宿(2 泊 3 日)を予定しています。

ゼミ活動を通じて、皆さんが学問上の知識を増やすだけでなく、長い付き合いができる大切な仲間と出会えるよう願っています。ゼミがそのような素晴らしい場となりますように…。

浜口　幸弘　ゼミナール

演習のテーマ

企業戦略と人工知能 AI

演習の内容

当演習では、経営戦略の考え方（必要に応じてマーケティングも）を十分に学習したうえで、企業戦略（主に、マーケティング戦略）に人工知能（AI）を利用する方法について、考察してゆきます。すなわち、利用者側の立場から人工知能の仕組みを基礎から理解し、さらに行動心理学の学習を踏まえたうえで、人工知能を用いた企業戦略（主に、マーケティング戦略）の実際と可能性を扱うことにします。それと同時に、議論できる力と説明能力を身につけられるよう指導します。

初年度前半では、経営戦略に関する教科書読み進め、随時、企業の調査分析を行います。このとき、演習問題および事例研究（自分で調べて報告）を通じて、理解を深めてゆきます。後半では、AI の基礎的な本を読み、その基本的仕組みを理解したうえで、行動心理学の視点から AI の思考を分析し、最終的に、マーケテイング分野への AI の利用を考察します。続く 4 年次では、卒業論文の製作を進めてゆきます。なお授業を補う形で、状況が十分よければ、3 月下旬（2 年次）と 9 月下旬（3 年次）にゼミ合宿を行う予定です。

本ゼミナールでは、以下の学生を希望します。

1. 卒業論文を書く学生（ただし、4 年次での就活時は、就活を優先して可）。
2. 人工知能と人間の思考の違いについて興味を持っている学生

教科書は『経営戦略入門』（日本経済新聞社）

人工知能および行動心理学に関する本については、適宜選択。

吉田　真　ゼミナール

演習のテーマ

ドイツ語圏における文化と社会の関係を考える

演習の内容

テーマについては、担当者の指導できる範囲である限り、参加者の希望、関心をできるだけ広く取り入れたいと考えている。

基本的にはドイツと日本を比較しながら文化と社会の関係の問題を考える。たとえば過去に取り上げてきたテーマとしては、ＥＵの成立と今後について、ユーロ危機、環境問題と原発の是非、学校教育、ドイツの自動車産業、ドイツの食文化、音楽と劇場文化、サッカーのブンデスリーガとＪリーグ、ドイツと日本の戦後の憲法といったものがある。こうした問題について自由に議論をしてゆく。

Ｂゼミなので卒業論文はないが、卒論に準ずるようなレポート作成を目標とする。

渥美　利弘　ゼミナール

演習のテーマ

日本と世界の貿易

演習の内容

国際貿易を経済学の視点から学び、貿易データを使って、日本とある国、またはある商品に関する日本と世界の貿易に関する卒業研究をします。

より具体的に、ゼミで学ぶ内容には下記が含まれます。

・そもそも貿易が発生する理由、その際の貿易のパターン（何が輸出され何が輸入されるのか)、貿易が行われたときの経済的影響

・貿易統計の使い方（データの収集、整理、加工、グラフ化等を含む）

・貿易統計の分析

以上の学習・研究を通じて、貿易の理論と実際を学びたい学生を募集します。

私自身は産業立地に関する応用理論的な研究や、最近はサービス貿易、自動車貿易そして偽造品の問題などについて、経済学の視点から研究をしています。私の関心分野やこれまでの研究について、詳しくは下記に一覧がありますので参照してください。

https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?resId=S000333

生方　雅人　ゼミナール

演習のテーマ

企業財務・投資理論

演習の内容

ファイナンス（企業財務・投資理論）はビジネスパーソンにとって世界共通の専門知識の 1 つであり、企業財務の知識や分析手法、ならびに投資理論の応用範囲はライフプランニングといった家計にまで及びます。企業財務（企業金融、コーポレート・ファイナンス）では企業が企業価値の向上を目指し、ビジネスをおこなう上で必要な資金をどのように調達するか、資金をどの事業に投資するか、株主にどれくらい利益を還元するかといった意思決定について考えます。投資理論（インベストメント）では株式、債券、投資信託といった金融商品の特徴や投資戦略について考えます。

3 年次はグループワークを中心に、基本的な企業財務と投資理論に関連する考え方や知識を高めていきます。例えば、業界当てクイズ（財務諸表ベース）や積み立て NISA（2024 年以降ルール）に基づいたポートフォリオ・コンテスト、グループ研究などをおこないます。また、経済・経営のデータ（アンケートデータを含む）や資料を活用して情報を収集し、そこから価値を引き出し、まとめ上げる力を向上させるために、Excel を用いたデータ分析もおこないます。4 年次には 3 年次の内容をさらに高めつつ、卒業論文という目標に向けて逆算する形でゼミ活動をおこないます。そのほかに、先輩ゼミ生との懇談やゼミ合宿等があります。なお、演習の欠席は全体のモチベーションを著しく低下させるので、正当な理由のない欠席に対しては厳正に対処します。このような流れでゼミ生はビジネス・財務について好奇心をもって臨めるようになる基盤を作り、今後のキャリアを意識し、キャリアで使える考え方やツールを身につけていきます。

その他のゼミに関する情報は説明会や学生によるゼミナール紹介のページ等（例：https://econ.meijigakuin.ac.jp/seminar_introduce/23-ubukata/）を参考にして下さい。

（※）昨年度にゼミ生の募集をおこなっていないため、一つ上のゼミ生はいないことをあらかじめご承知おきください。

大野　弘明　ゼミナール

演習のテーマ

Financial Economics

演習の内容

【学習内容】
本演習では以下の二点を学びます。
・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】
以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの２年間】
学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などを実施してきました。企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OG の進路】
卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。 また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】
本ゼミナールでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。ただし、高度な数学力を求めると言うよりは金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

岡崎　哲二　ゼミナール

演習のテーマ

日本の経済発展

演習の内容

3 年次のゼミでは、19 世紀末以降、現代までの日本の経済発展をマクロ的な視点から理解することを目標とする。テキストとして、南亮進・牧野文夫『日本の経済発展』（第 3 版）（東洋経済新報社、2002 年）、菅山信次『「就社」社会の誕生：ホワイトカラーからブルーカラーへ』（名古屋大学出版会、2011 年）を使用する。これらテキストを毎回 1 章ずつ、あらかじめ割り当てられた 2 名の学生がパワーポイントを使用して説明し、それに基づいて全員で議論する。また、いくつかのテーマを設定して、グループ研究を行い、研究成果をゼミで発表する。

4 年次のゼミでは同じ期間の日本の経済発展を、よりミクロ的に産業・企業に焦点を当てて理解する。3 年次と同様にテキストの輪読を行うとともに、各学生が卒業論文の準備のための発表を行い、年度末に卒業論文を提出する。

工藤　健太　ゼミナール

演習のテーマ

データ分析を使って社会の課題について考える

演習の内容

　近年、ビジネスの場でもデータを用いた実証分析が重要視されています。そのため、本ゼミナールでは、統計学や計量経済学を中心としたデータ分析の知識を得て、論文が執筆可能な水準となることを目標にします。2 年間という限られた期間で卒論研究が完了することを目指します。そのため、参加者は意欲的にゼミに参加し、積極的にスキルを身に着けていくことが求められます。

(演習の進め方)

・3 年次には、教科書を輪読し、プレゼンを行います。統計学・計量経済学の知識について整理し、Excel や R および gretl 等の計量ソフトウェアを用いた分析も行う時間を設けます。輪読の内容などは、参加者の興味・関心を反映させる予定です。

・一通りの学習が終わったのち、4 年次においては卒論の研究テーマを決め、データの収集や必要な知識の習得に注力します。定期的に研究の経過報告を行う機会を設けます。

(卒論研究のテーマ)

データを用いた実証分析であることが前提になりますが、卒論研究のテーマ・内容は参加者の自由です。

(例) ・不祥事などの特定のイベントは、企業の価値に影響を与えたか？ ・近年の金融政策は、経済を活性化させるほどの効果があったか？ ・野球などのスポーツについての統計的分析も卒論として充分取り扱うことが可能

(受講にあたっての注意)

・報告者(報告グループ)は特別な事情を除き、欠席は認められません。授業が成立しなくなるためです。

・本講義では、ゼミ開始時の数学・統計学・プログラミングの知識については特に問いません。ただし、実証分析が可能になる水準に到達するためには、参加者が意欲的に学習することが重要です。

西原　博之　ゼミナール

演習のテーマ

国際経営、比較経営、異文化マネジメント、企業の海外進出、中国、台湾などの華人経済圏における企業の経営管理、インバウンドビジネス、その他の国際ビジネス関連。

演習の内容

１）開講期間：当該ゼミはＢゼミであり、2025 年度の 1 年間限定となる。

２）同演習の研究対象は、「国際経営」、「比較経営」、「異文化マネジメント」、「企業の海外進出」「組織の国際化」、「グローバル人的資源管理」だけではなく、海外から日本に向かう「インバウンドビジネス」、その他の国際ビジネス関連にも及ぶ。つまり、企業や人の国際経営活動に関する「イン」及び「アウト」である。

３）上記内容の関連文献を読んで、報告書を作成、プレゼンテーションを行ったり、その内容に関して質疑応答を行う。

同演習の目的は、国際経営に係わる知識を身につけて理解を深めることである。したがって、以下の活動を通してその能力を養う。

① 「国際経営」に関する教科書、参考図書、資料等の紹介、選定

② 選定図書の中から担当部分を選び、情報機器を用いたプレゼンテーションの実践

③ 少人数グループによるレジュメ作成、報告を行う。メンバーとの共同作業を通して、プロジェクト管理能力を高める。

④ 報告班のメンバーは、それぞれ報告レジュメとパワーポイント資料を作成し、担当者はプレゼンテーションを行う。

⑤ 報告を行わない班のメンバーは、指定された文献や資料を熟読し、事前に報告に関する質問を全体に提示する。

⑥ 報告班メンバーによる報告が終了した後、引き続き司会を務め、他の班のメンバーは質問を提示、質疑応答を行う。

⑦ 担当教員は必要に応じて、パワーポイントの提示方法、プレゼンテーション、質疑応答に対する補足説明やアドバイスを行う。

以上、在学中に国際経営についての知識を養うと同時に、学んだ知識を将来の進路、就職活動に役立てていくことになる。

藤田　晶子　ゼミナール

演習のテーマ

企業の開示情報とその分析 ―投資意思決定における財務情報と非財務情報の有用性―

演習の内容

企業の財務報告にかかる国際的な開示制度や会計基準をしっかりと理解し、それをどの ように分析に活用していくのかを調査研究する。また、 将来予測に不可欠とされる非財務情報にも焦点をあて、財務情報と非財務情報の関係や、非財務情報の課題などについて、検討をくわえていく。

具体的には、主として、次の内容を考えている。

① 国際的な開示制度とそのもとでの財務報告 ～情報と株価の関係
② 財務情報とその国際比較 ～J-GAAP と IFRS の差異
　　財務情報から考える M&A の成否
　　研究開発活動・広告宣伝費とその後の企業業績推移
　　ブランド力と企業業績　などなど
③ 非財務情報の役割と課題
　　ESG 情報の国際比較とその有用性
　　人的資源に対する投資と企業業績
　　統合報告書の役割とその分析 ～非財務情報と企業価値との関係
などなど

マイヤーオーレ ヘンドリック　ゼミナール

演習のテーマ

International Business, Marketing and Retailing, Human Resources

演習の内容

In this seminar, we will explore how companies structure and manage their international businesses. Why and how do companies enter foreign markets, how does this affect their organization, how do they organize the management of human resources? Participants will examine these aspects through case studies of various companies, whether they are based in Japan or overseas. We will work with written materials, but research might also include interviews with managers or even the observation of the stores of foreign retailers in Tokyo.

Activities in the seminar will include:

1. Developing research questions and designing a research plan.
2. Learning how to find good information sources.
3. Analyzing information by using available frameworks from business and academia.
4. Confidently presenting findings through presentations and reports.
5. Working together and discussing with others

In addition to developing your analytical and presentation skills, I aim to foster your ability to interact and collaborate with individuals of different nationalities. This will be achieved through opportunities to engage with business professionals and to participate in joint projects, both online and in person, with students from universities outside of Japan.

松園　保則　ゼミナール

演習のテーマ

Public Speaking

演習の内容

This seminar course focuses on public speaking of all kinds. Through two years of seminar activities, students will master crucial principles of public speaking in English and develop their own engaging speaking styles for public presentations. Additionally, this seminar aims to prepare students for their future careers by fostering genuine confidence and professionalism in public speaking.

During the third year, 2025, students will learn about the fundamental principles of public speaking using assigned textbooks. They will also analyze professional speakers as case studies, engaging in group discussions and public speaking exercises in the classroom. Furthermore, to prepare for writing their thesis in English in their final year of 2026, students will write multiple-draft essays supported by logical arguments and information from texts.

Moving into the fourth year, 2026, students will explore the theoretical aspects of public speaking in depth, including text organization, linguistic features, delivery techniques, and psychological aspects. They will learn to apply these aspects when analyzing the performances of public speakers and will select and examine a few speakers using these criteria to develop their own professional speaking styles. The insights and findings from their analyses will be incorporated into their graduation thesis.

Throughout the two-year seminar, students are expected to actively participate in group and class discussions conducted in English during each session.

発　行　日：2024 年 9 月 1 日
編集責任者：藤田　晶子
編　　集：明治学院大学 経済学部
〒108-8636
東京都港区白金台 1 - 2 -37